

ベトナムハノイで、yamagata ソウルフード芋煮！

農学部 食農環境マネジメント学コース

13610079 3年 佐藤裕太

派遣先大学：ベトナム国家農業大学

派遣期間：3/10～3/22

今回の日本語大使としての日々の中で最も印象に残っているのは、日本人学生のアテンドを行ってくれた現地 OG のはんちゃんの家にもホームステイした時に、山形のソウルフード「芋煮」を作ってみんなで食事をしたことだった。(笑)週末になるとセンター街の観光や大型ショッピングセンター（イオンモール）に行き、ボーリングを楽しんだりするのだが、その中で、ホームステイしたい！との声が上がリ、せっかくホームステイするのだから、日本食を作ろうという話になり、山形代表でここに来ているのだから、芋煮を作ろう！という流れで実現した、今回の企画。笑

思ったことは、やろうと思えば何でもできるんだなあということ。日本ではないので、里芋はそれっぽいものを購入して、なんとか仕上げた。日本にいと、やる前からできないなんて考えがちだけど、そんなことはないのだなと感じた。やる前から決め付けない。やってみてどうかで判断する。なんだろう、海外に行って今回も感じたが、自分の身体と生活との距離が日本にいる時よりも近いように感じている。今ここに生きている感じ。その感覚が楽しかった。



真ん中にあるのが芋煮。

メインの活動となる日本語教室では、ベトナム人学生の日本語を話せる能力の高さに驚いた。行く前ではほんとうに基本的なところから、しかも英語で教えなくてはいけないのだろうなと考えていたので、考えていた困難は特になかった。しかし、ある程度日本語を学んだ現地の学生に対して、理論では語れない日本語の感覚的な部分を伝えるのに苦労した。ほぼ毎回の授業ではマンツーマンで教えるスタイルをとっていたので、教える内容は学生のレベルに応じて教えた。ひらがなの読み書きについてだったり、テキストに沿って音読の練習だったり、その先生役を演じた。また、私は花笠踊りの技術を持っているので、WSとして現地学生に教えた。今回は楽しかった。というのも、今回でこのように外国人に花笠踊りを教えるのはちょうど片手で数えるぐらいに経験している。最初に比べたら踊ることをわかりやすく、要点のみを伝える技術がパワーアップしたと思う。(笑) 自分が楽しめたら、きっちりした言葉の能力はいらない。

この日本語教室もっとも印象的だった言葉に「just kidding は just joke だよ」があった。個人的にはどうも冗談が通じない人間らしく、その文化に違いは苦労したのだが(笑)、みんなで手をつなぎながら笑って歩いている姿をみて、日本人の奥ゆかしさ的な感情表現はないのかなと感じていた。

今回約10日間の日本語大使としてのベトナム滞在は、文化の異なる人たちと密接に関わりながらの生活だったので、うまく伝わらないもどかしさだったり、本当はこうじゃないのに、という葛藤みたいなものだったり、今振り返ってみると苦しかった。でも、現地の学生やはんちゃんたちの支えのおかげでなんとか乗り切ることができた。一番考えさせられたのは、目の前にいる人のことを笑顔にすることができずに他の人のことを笑顔にかえることができるかということ。本当に充実した時間たちだった。

最後になりましたが、関わってくださった多くの関係者の皆様、本当に、ありがとうございました。ここでの経験を将来に生かして地元山形に還元します。

